

トホクのカリフラワー栽培方法

発芽適温：20～25℃ 生育適温：15～25℃
土壌酸度：pH6.0～6.5 連作障害；2～3年あける

1. 作物特性

カリフラワーはブロッコリーと同じ仲間で、私たちが食べている白い部分は花に発達する前の極々小さい蕾の元が集まっている部分で、花蕾（からい）と呼ばれます。カリフラワーは株が一定の大きさになった後に低温にあたると花芽をつける習性ですから、立派な花蕾を収穫しようとするならしっかりと植物体を育てることが必要です。またその極々小さい蕾の元は非常にデリケートですから、特に花蕾肥大期の気温などによって異常花蕾が発生しやすいこともあります。タネまきは無理のない時期を選び、スムーズに生育させることがポイントとなります。

2. 畑の準備

カリフラワーは乾燥には強く過湿には弱いので、排水の良い畑を選んで作りましょう。うねは排水の良くない畑では水はけを考慮して少し高めにするとうまいでしょう。



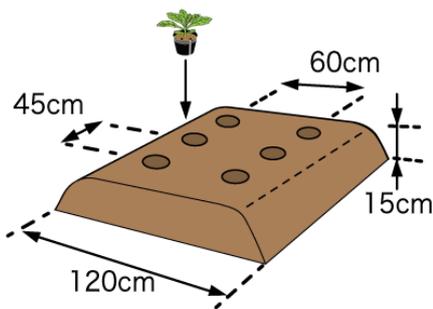
3. タネまき

なるべく大きな植穴のポット（例えば5×5穴）を使います。苗は日当たりの良い場所で育てます。本葉3枚頃までに生育の良い株を残して間引きをします。



4. 植えつけ

タネまきから約3週間後、本葉5枚頃が植えつけの適期です。深植えを避けてうね面と同じ高さになるようにポットがすっぽり入る位に植え穴をあけ、根鉢をくずさないように注意して植えます。植えつけは天気の良い日を選び、その後しっかりと水をやりましょう。



5. 栽培管理

生育初期には、ハスモンヨトウやコナガ、ヨトウムシ、アオムシなどの害虫が発生します。食害は収穫の遅れや枯死の原因となりますので、農薬などを適切に使って防除することも必要です。



（葉の裏も注意!!）

植えつけから約3週間後、株がしっかりしてきた頃に追肥をします。1㎡当たり化成肥料50gを株元に施し、除草を兼ねて中耕します。



花蕾ができてきたら周りの葉をしぼり、陽射しが入らないようにするとより純白の花蕾にすることができます。陽射しを完全には遮れ

ませんが中の様子を観察して収穫期を見計らうのには、葉を内側に折り込む簡便な方法もあります。

6. 収穫

花蕾が20cm位になったら収穫します。取り遅れると花蕾がばらけだして美味しくなくなります。どちらかと言えば早めの収穫をお勧めします。収穫は花蕾の下あたりに包丁などを差込み切り取ります。



栽培例	●まく時期		■収かく期									
地域/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
冷涼地												
中間地												
暖地												